

平成27年度 弘前市総合計画審議会議事概要 (第5回)				
日 時	平成28年1月29日 (金) 13時00分～15時00分			
場 所	弘前市役所 2階 特別会議室	傍聴者	0人	
出席者	委員 (14人)	森会長、村松委員、生島委員、中村委員、淀野委員、島委員、清野委員、成田委員、工藤委員、北村委員、山形委員、山本委員、青山委員、名越委員		
	事務局 (6人)	ひろさき未来戦略研究センター副所長、ひろさき未来戦略研究センター総括主幹、ひろさき未来戦略研究センター主査、ひろさき未来戦略研究センター主事		
	その他			
<b>会 議 概 要</b>				
1 開会				
2 議事				
(1) 評価結果・資源配分に従った各施策の見直し結果と経営計画第3章改訂案について				
○主な質疑等の内容は以下のとおり。				
【ひとつづくり】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクール導入研究事業について、ひろさき教育創生市民会議において、コミュニティ・スクールの導入は当市の現状からなじまないという議論があったにもかかわらず、新規事業として始めるということであれば、ひろさき教育創生市民会議の存在意義が薄れる。</li> <li>→ 昨年の教育委員会での議論を経て、コミュニティ・スクールの導入という方針が教育委員会から出されているが、その方針と各会議での議論の整合が図られていないのであれば、整合性が担保されるよう教育委員会に指示する。</li> <li>・コミュニティ・スクールの導入を教育委員会が決めたとしても、地域住民の意向が重要であるので、その点に留意すべきである。</li> <li>・「子育て・子育ちへの多様な応援」の取組内容に、大学生などの若い世代へのライフプランを考えるきっかけづくりを進めるとあるが、大学生以外の若い世代の方がライフプランについて考える機会が少ないと思われるので、大学生という文言は削除して方が良いのではないか。</li> <li>→ 担当課に伝え、検討する。</li> <li>・図書館の指定管理については、行政がいかなる施策を持って委託しているかが重要であることから、経営計画の計画事業から外すべきではないのではないか。</li> </ul>				

→施設の維持管理という側面から計画事業から外すという整理であるが、特殊性を考慮し、事業の位置づけについては改めて検討する。

- ・認定こども園の普及については、事業者側の意識啓発がなければ進まない。
- ・図書館も含めた社会教育施設の指定管理については、市長部局と教育委員会との考え方の整合が図られていないように感じる。指定管理を行うにしても、どの範囲までにするのかしっかりした議論が必要。

→文化センターのように建物の維持管理は指定管理、運営は直営というやり方もあるので、今後、指定管理を行ううえで、委託する部分については調整していくことになる。

### 【くらしづくり】

- ・弘前は青森、八戸に比べて国保の資格証となっている被保険者が多いと聞いたことがあるが、これに対する施策が抜け落ちてしまっているのではないかと感じる。
- 資格証受給者に対する施策というものはないのが現状。ただ、新たに施策として設ける生活困窮者の自立支援が、広い意味ではこの問題に対する施策に当てはまることになる。
- ・医療を受けることのできる体制の整備がまず重要。
- ・福祉の分野は何か一つを解決すればいいというものではなく、様々な要因が絡み合っている場合が多いので、分野横断的に施策を展開するための部署が必要なのではないかと感じる。
- ・発達支援に関する施策が追加されたことは画期的なこと。この取り組みを教育、就労までつなげていけるよう期待したい。
- ・津軽地域保健医療圏構想について、弘前市単独で策定・実施するものではないが、弘前市の役割は重要かつ大きいものになるので、津軽地域という視点を持って、策定・実施していく必要がある。
- ・がん検診受診率向上については、受診体制の整備も重要。
- ・健康教育について、市として独自の取組を強化していく必要があるのではないかと感じる。
- ・まちなか花いっぱい事業について、老人クラブの負担軽減のほかにも、商店街などとの連携を具体的に進めていって欲しい。
- ・公共施設については、分煙ではなく思い切って禁煙にする方針を市として進めていくべき。

### 【まちづくり】

- ・融雪に関しては地下水の問題もあるため、安易に推進するのではなく、費用がかかっても排雪をしっかりと実施するなどすべき。
- ・小学生などの子どもを対象にした交通教育を推進していかなければ、交通マナーの

向上は見込めない。

- ・大仏公園のあじさいを観光資源として育てていくことも整備・活用の一つ的手段。
  - ・衣類回収ボックスをより身近なところに設置するなど利便性の向上をはかっていただきたい。
- 現在は公共施設に設置しているが、来年度からは電気量販店やスーパーなどの民間事業者の施設にも設置する予定となっている。
- ・町会への除雪機の貸し出しのほかに、例えば雪置き場となる空き地の提供など、さらにもう一步踏み込んだ支援が必要ではないか。
  - ・雪対策についての計画はもちろん必要だが、実効性のある計画となるべき。

#### 【なりわいづくり】

- ・飛騨高山は人口 9 万に対して、インバンドで外国人観光客が 28 万に来ている。これは、飛騨高山が数十年前から、職員を海外へ派遣し、現地での人脈作りの成果であり、人材活用がうまいと感じた。弘前も観光に関して、様々取り組んでいるが、人材の活用について、検討していく必要があると考える。
- ・経営計画を考えるうえで、弘前の経済がどうなっているのかをまず考える必要があり、その根拠となるのがデータである。データの蓄積・分析が極めて重要であり、データに基づいて施策を考えていかなければ意味ある計画とはならない。

#### 【戦略推進システム】

- 事務局からの説明に対し、委員からの質問・意見等なし。

#### (2) 今後のスケジュールについて

- 事務局からの説明に対し、委員からの質問・意見等なし。